

※初めての試みとして、講演開始前の待ち時間を利用して10問の防災クイズを参加者の方々に回答していただき、そのクイズの答え合わせという形で進めていきました。参加者の方々にとって事前に回答を考えているので、その答え合わせを楽しみながら講演を聴いていただけたと思います。また、そのクイズ内容も丹沢や箱根について、関東大震災について、消防法など法律についてなど多岐にわたっており、今回の講演会の充実につながりました。

## 講演内容

### 1. 自己紹介

- ・北網島小学校長、太尾小学校長、長津田小学校長を歴任、平成30年に退任
- ・地域、保護者、教員と連携し、学校を拠点として地域防災を推進
- ・防災塾・だるま会員、神奈川地学会会員
- ・防災士
- ・学校・地域防災・地学支援活動に取り組む

- ◎教員時代に阪神淡路大震災を経験しましたが、生活されている人は、あのような活断層が目視できるような場所にいながら、大きな地震になるとは夢にも思わなかったという現実に驚愕しました。神奈川県も似たような環境にあり、地学の勉強は大切と思い、たくさんの方への普及活動を行っています。
- ◎東日本大震災では学校という存在が地域の要であると気がつき、どのように地域や保護者と連携していけば良いのかを考え、取り組んできました。

### 2. 防災クイズの結果と解説

- ① 神奈川県は丹沢山地は南方の火山島郡が何百キロも移動し、本州に「激突」したものである

参加者の回答 ○82.4% ×17.6%

正解は○

富士山に向かって日本列島は折れ曲がっている

地球の裂け目に泥がたまってくれたおかげで平野が出来、私たちが暮らせている

- ② 関東大震災は東京都の直下型地震であり震度が激甚な地域は神奈川県より東京に広がっている

参加者の回答 ○61.8% ×38.2%

正解は×

関東大震災は丹沢山地・神縄断層を中心に100年前の1923年に発生

丹沢山地から三浦半島、房総半島に向かって広がって起った

関東大震災は神奈川県で発生した直下型地震であった

- ③ 富士山は300年以上噴火していないので、将来的にも噴火の可能性は低下していくとされている

参加者の回答 ○2.9% ×97.1%

正解は×

富士山が噴火すると、溶岩流は酒匂川を流れる可能性がある

東名高速のルートも溶岩流の流れた痕跡があるが、この場所に流れると交通網が分断され大変な被害が想定される

- ④ 神奈川県箱根山はカルデラ火山であり、過去に巨大な火砕流が横浜まで達した地層がある

参加者の回答 ○82.4% ×17.6%

正解は○

箱根は鍋形の火山で当時 横浜にも1mもの灰が積もった

降灰は健康被害も心配されるので、マスクやゴーグルなどの保護具が有効である

- ⑤ 道路交通法によれば「黄色信号」または歩行者信号の「青点滅」は「注意してすすめ」である

参加者の回答 ○23.5% ×76.5%

正解は×

道路交通法令によれば、歩行者は横断を始めてはいけない（横断を始めてはいけない）渡れなかったら、引き返すのが正解

車両の場合は、安全に止まれない場合は、進むことができる

- ⑥ 家で火災が起きたら、子どもは学校で学んだ「お・か・し・も・ち」（押さない・かけない・しゃべらない・戻らない・近寄らない）を守り、必ず地上に避難するよう教えるべき

参加者の回答 ○55.9% ×44.1%

正解は状況判断が出来る事が大事なので、マンション、一戸建てなど、いろいろな場面を想定した訓練が必要

家に一人にいる時に火災が起きたら…

- ・消火器の用意があったら良い
- ・叫ぶ・119番に連絡する（自分でまたは近所の人に）
- ・火が目の高さになったら逃げる

- ⑦ 消防法によれば、学校で火災が起きた場合は、学校職員は生徒の避難誘導のみに専念するよう義務づけられている

参加者の回答 ○29.4% ×70.6%

正解は×

教員は消火、通報、避難誘導に重きを置いている

- ⑧ 「学校保健安全法」によれば、児童生徒等の安全の確保をはかるため、児童生徒等の保護者、及び関係団体、当該地域の住民その他の関係者との連携を図ることは学校において努力義務とされている

参加者の回答 ○ 85.3% × 14.7%

正解は○

学校はPTA役員会、学校評議会等に「防災体制」「登下校マニュアル」を議題として設定しましょう

保護者の安全も考慮した引き取り、下校計画を策定する

PTA地域住民、関係機関と連携、役割分担のタイムラインを策定する

- ⑨ 家のリビングで食事中に緊急地震速報を聞いたら、学校の訓練を生かしてどのような部屋でもテーブルがあればテーブルの下に身を隠すように子ども達に教えるべきである

参加者の回答 ○ 32.4% × 67.6%

正解は×

家のリビングで机の下に隠れるのが正解とは限らない（誤った刷り込み教育）

机や家具は固定していなければ、けがをする

最近の防災訓練では机の下に隠れなさいとは言わなくなった

突っ張り棒はなるべく壁側にするとしっかり固定されて有効

- ⑩ 異常気象による想定を超える風水害が多発する時代となったので、当てにならないハザードマップなどは見ないようにし、最新のSNS情報を根拠に、周りの人の動きを観察して、臨機応変に判断して命を守る「未来型防災教育」が必要である

参加者の回答 ○ 29.4% × 70.6%

正解はおそらく×

異常気象により、想定を超える風水害が多発する時代になったので、ハザードマップを信用せず、SNSなどで情報を収集し、各自が臨機応変に行動することが大事

## まとめ

- ・学校にいる間に風災害・地震等の災害が起きたときにどうするか、様々な場面を想定しておく必要がある。又、遠方にいる保護者は無理に帰る（子どもを迎えに行く）ことを優先すると、保護者自身が危険な目に遭う可能性があるため、学校は生徒を安全に預かる体制を整えられることが必要。
- ・それぞれの学校の災害レベルを考え、地域で考えていくことが大事  
身近な法律 消防法、学校保健安全法、道路交通法は学校が正しく理解し、職員が実践して生徒に見せることが大事
- ・時系列防災行動計画（タイムライン）で自ら考え、参画する防災力の育成を目指しましょう